

北海道浮魚ニュース

平成 10 (1998) 年度6号 (通巻 No.27)

1998年7月8日

北海道立中央水産試験場	Tel: 0135-23-8707	Fax: 0135-23-8709
釧路水産試験場	Tel: 0154-23-6221	Fax: 0154-23-6225
函館水産試験場	Tel: 0138-57-5998	Fax: 0138-57-5991
稚内水産試験場	Tel: 0162-23-2126	Fax: 0162-23-2134
網走水産試験場	Tel: 0152-43-4591	Fax: 0152-43-4593

太平洋スルメイカ北上期調査結果

金星丸 (函館水試調査船) により行われたスルメイカ調査結果をお知らせします。

調査期間: 1998年6月29日~7月7日

調査海域: 道南太平洋 (渡島半島沖~日高沖~下北半島沖~津軽海峡)

1. 表面水温は、12~15°C台と昨年並でした。また、50m水温は4~13°C台で昨年の7~14°C台より低めであり、特に日高沖のSta.15では3°C以上低めでした (図1, 2参照)。
2. $cpue$ (イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数; この数が大きいほど濃い群) は、4調査点全体では0.8~3.2尾/(台・時)の範囲にあり、昨年よりもかなり低い値でした。また、全調査点の平均 $cpue$ は2.9尾/(台・時)であり、1993(H5)年以降では最低でした (表参照)。
3. スルメイカの外套長 (足の部分を除いた胴の長さ) は、5調査点全体では12~24cmの範囲でした。また、モード (平均的な大きさ) は15~17cmであり、H5~H9年と比べれば、数センチほど小さな魚体でした (表, 図参照)。また、日本海のスルメイカ (モード18~22cm) に比べても小型でした (本情報のNo23参照)。
4. 今回のスルメイカ調査は、あまりよい結果ではありませんでしたが、Sta.1と15では、イカ釣機の針では釣られないと思われる10cm以下の幼イカ群が船の周囲を泳いでいました。これら幼イカの成長と日本海からの大型イカの回遊に期待したいものです。

(文責: 函館水試 資源管理部)

この度、函館水試資源管理部に直通電話が入りました。
*電話番号は 0138-57-5997 です。

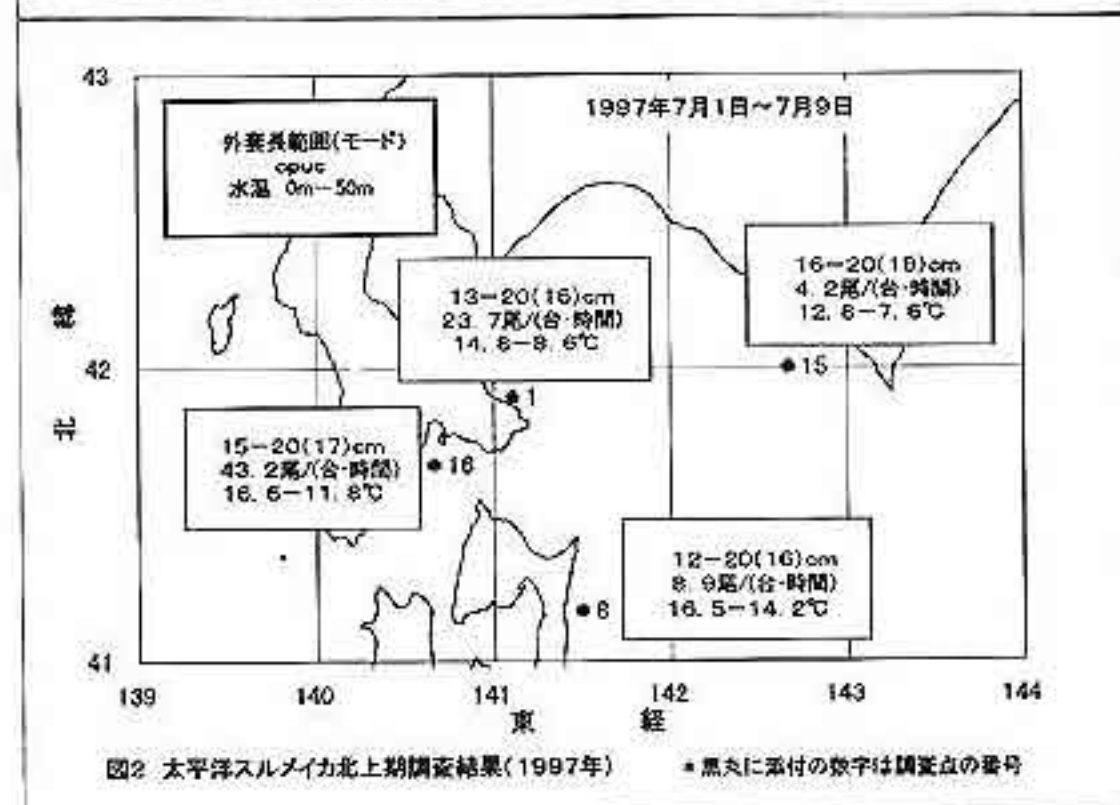
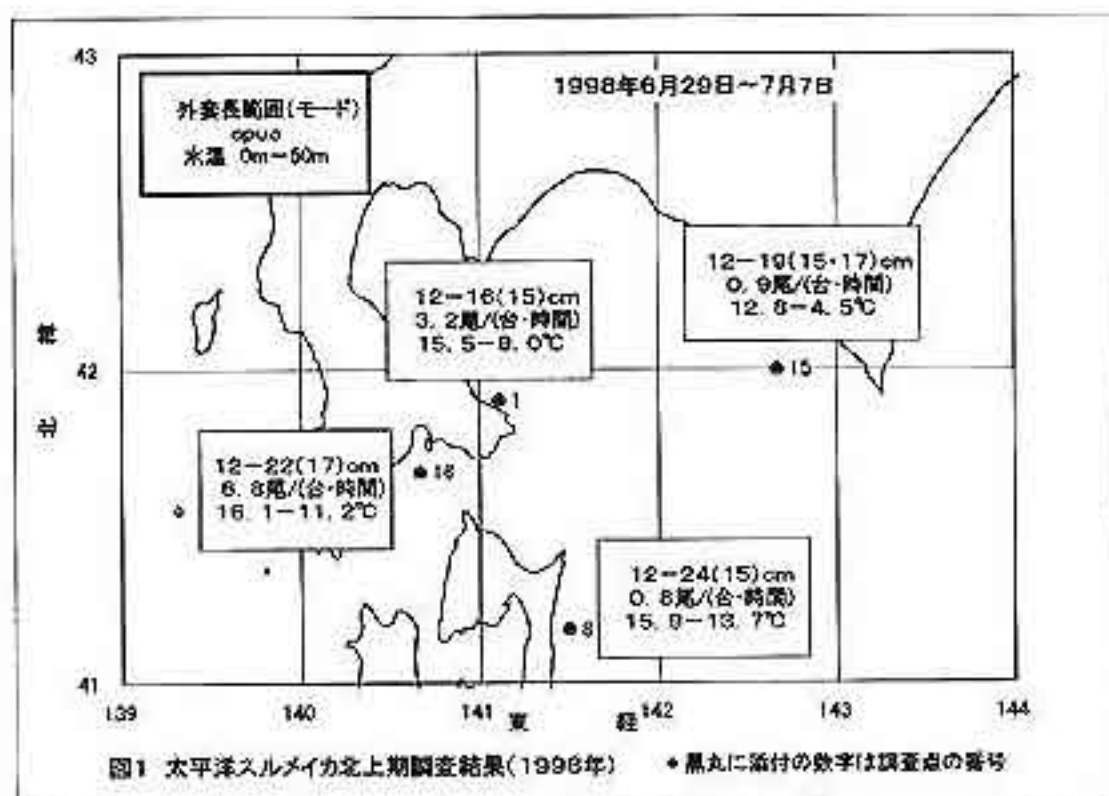


表 通年太平洋スルメイカ北上期調査時のCPUEと外套長の経年変化

	1993(H5)	1994(H6)	1995(H7)	1996(H8)	1997(H9)	1998(H10)
	7/13-22	7/11-21	7/5-13	7/4-19	7/1-9	6/29-7/7
4調査点の						
平均CPUE(尾/台・時間)	6.5	4.3	10.8	7.4	20.0	2.9
外套長の範囲(cm)	8-25	8-29	11-26	11-27	12-26	12-24
外套長モードの範囲(cm)	17-19	18-22	16-20	15-18	16-24	15-17